御崎地区

地　勢

もともとは三崎新浜村といい、瀬戸内海に伸びる三つの崎から名付けられた景勝地である。東浜塩田の一角を占めており、現在の埋立地も標高で2.5mと大変低く、また平らである。瀬戸内海沿いには流紋岩の岩礁が見え、潮の干満で姿が変わる畳岩や、県内最低峰の唐船山を擁する。

歴　史

御崎の古代の歴史は明らかでなく、いくつか古墳が散見される程度である。一方、伊和都比売神社は延喜式にも登場する由緒ある神社であるが、現在の姿になったのは、天和 2（1682）年に浅野長矩が社殿を遷した後のことであろう。

御崎地区における塩田の始まりは、正保 3（1646）年にさかのぼり、中・東播磨からの製塩技術者の移住に起因するものであることがわかっている。浅野長直が積極的に干拓を行い、東浜塩田は浅野時代にほぼ整備が完了した。

近代になると、塩田の廃止に伴って広大な遊休地が発生した。御崎地区では尾崎地区と同様、石指（イッサシ）の山を削って大造成を行い、住宅地を中心とする文教地区として生まれ変わった。

表 22　御崎地区　年表

時　代	年　代	で　き　ご　と
縄文時代後期	約 4,000 年前	海岸沿いで縄文土器出土 (猪壷谷遺跡)
古墳時代後期	6 世紀後半～ 7 世紀	海岸沿いに後期古墳築かれる (尾崎・大塚古墳)
古　代		「延喜式」に小社として伊和都比売神社が記載される
近　世	寛永 3(1626) 年	池田光政の家臣、岡田弥兵衛が赤穂入浜塩田の開拓を開始する
	正保 3(1646) ～寛文 12(1672) 年	的形 (姫路) や荒井 (高砂) などより製塩技術者ら家族 498 名が招聘される
	明暦 3(1657) 年	日想庵（廣度寺）が開基
	寛文 7(1667) 年	唐船大土手の築造、翌年より唐船塚の干拓始まる、光徳寺が開基
	延宝元 (1673) 年	田淵家、尾崎村より御崎新浜村に移る
	天和 2(1682) 年	御前（御崎）大明神建立
	宝永 3(1706) 年	新浜村明細帳
	寛保 2(1742) 年	対馬の塩田開発指導に御崎新浜村弥次兵衛が出向する
	延享 5(1748) 年	田淵氏、赤穂藩の蔵元となる
	天明 8(1788) 年	司馬江漢が御崎を訪れる
	文化 6(1809) 年	大坂送り塩の専売制開始 (1821 年まで)
	文化 9(1812) 年	赤穂塩田、休浜同盟に参加
	文政 6(1823) 年	製塩に石炭焚き開始
	文久 3(1863) 年	御崎・唐船御台場普請につき触書を出す
近　代	明治 20(1887) 年	御崎の早川宗助、児島なかより赤穂緞通の指導を受ける
	明治 22(1889) 年	新浜村となる
	明治 29(1896) 年	対鴎館が茶店から料亭となる（明治末には御崎初の旅館となる）
	明治 31(1898) 年	赤穂緞通業が成長（織り子 176 名）、天皇の御召列車の敷物に採用される
	明治 34(1901) 年	赤穂緞通をニューヨーク・ロンドンへ輸出し始める
	明治 38(1905) 年	塩専売制施行、赤穂に塩務局が設置される
	明治 39(1906) 年	赤穂塩務局新浜出張所が設置される
	大正 3-4(1914-15) 年	専売局の指導により採鹹法導入
	大正 10(1921) 年	採鹹法を鹿忍式採鹹法に変更、鷗護岩の灯台が完成
	大正 13(1924) 年	赤穂東浜信用購買利用組合発足
	大正 14(1925) 年	赤穂土地合資会社による御崎開発開始
	昭和 2(1927) 年	御崎が「日本新百景」に選定される、県道御崎線改修整備
	昭和 3(1928) 年	川口線の拡幅、正保橋新設工事、学校・役場などの移転・新設
	昭和 4(1929) 年	塩田の第二次整備始まる、一部廃田となる
	昭和 6(1931) 年	元禄橋竣工
	昭和 12(1937) 年	赤穂、塩屋、尾崎、新浜が合併して大赤穂町になり、新浜は赤穂町御崎となる
	昭和 13(1938) 年	東浜合同煎熬工場が完成、上荷舟が陸軍への徴用により消滅
現　代	昭和 23(1948) 年	東浜合同煎熬工場が全焼
	昭和 25(1950) 年	御崎から坂越の海岸が瀬戸内海国立公園に指定される
	昭和 29(1954) 年	御崎－坂越間の観光道路が完成
	昭和 31(1956) 年	御崎海岸が瀬戸内海国立公園に追加指定される
	昭和 32(1957) 年	枝条架による流下式製塩への転換工事完了
	昭和 34(1959) 年	御崎観光道路が開通
	昭和 38(1963) 年	赤穂御埼灯台の設置・点灯
	昭和 45(1970) 年	赤穂御崎温泉の泉源開発に成功
	昭和 46(1971) 年	赤穂東浜塩業組合が製塩を中止、赤穂化成 (株) 設立
	昭和 47(1972) 年	赤穂東浜塩業組合解散
	昭和 48(1973) 年	赤穂化成 (株)、特殊用塩の製造販売を開始
	昭和 56(1981) 年	県立赤穂高等学校が城内から御崎に移転
	昭和 58(1983) 年	御崎土地区画整理事業開始
	昭和 62(1987) 年	塩田跡地に兵庫県立赤穂海浜公園開園、市立海洋科学館が開館 田淵氏庭園が国名勝に指定
	平成 3(1991) 年	教育委員会が赤穂緞通織方技法講習会を開催
	平成 5(1993) 年	赤穂海浜大橋が完成
	平成 8(1996) 年	御崎土地区画整理事業完了
	平成 12(2000) 年	温泉を再掘削し、「赤穂温泉」に改称（名湯 100 選）
	平成 25(2013) 年	赤穂元禄スポーツセンター開園
	平成 27(2015) 年	赤穂海浜スポーツセンター開園
	平成 28(2016) 年	みなとひろば開園